

New Crown 第6回 Lessons

Lesson 6-1: be 動詞の肯定文② (he / she / it / this / that)

ここで学ぶのは、主語が he / she / it / this / that (または、これらの代名詞に言い換えることができる名詞) の時の「be 動詞の肯定文」についてです。作り方は、簡単。なぜなら、主語が I / you / we / they の時とほとんど同じだからです！唯一の違いは、be 動詞に is が使われるという点です (he / she / it / that の場合、主語と be 動詞をくっつけて he's / she's / it's / that's とすることも可)。

【be 動詞の肯定文②：基本の形】

主語 + is + ○○.

(意味: 「主語は○○です」)

<○○の部分には「形容詞」「名詞」「形容詞+名詞」などが入る>

- <例> He is (He's) Taichi. (彼はタイチです)
She is (She's) a good student. (彼女は良い学生です)
This is 'hello' *in Japanese. (これは日本語で「こんにちは」です)

*「～語で」という場合、前置詞は in が使われる。

【ポイント！】

1. it / this / that の使い分け

使い分けは、基本的に「それ = **it / that**」「これ・こちら = **this**」「あれ・あちら = **that**」となります。「それ」という意味の it / that の使い分けが気になりますよね？実は、it / this / that は、「it = **人称代名詞**」「this / that = **指示代名詞**」と分けることができます。

<人称代名詞>

基本的に、もうすでに何について話しているか分かる場合に使われる代名詞で、前の文に登場した名詞の繰り返しを避けるために使われます。ちなみに **I / you / we / he / she / they** も人称代名詞です。

<指示代名詞>

これ・それらのように「人・物・事」を指し示す時に使われる代名詞（「すでに話題にでた“それ”なら **it**、「あなたが手にしている“それ”なら **that** が使われる）。

2. everyone / every student といった every~ は、単数形

「みんな」と主に訳される everyone や、「全生徒」と訳される every student など、every~ の形は、複数形のように思えて実は単数形になります。そのため、be 動詞は is が使われます。

- <例> Everybody is tall. (みんな背が高いです)

3. 形容詞としても使える **this / that**

「これ / それ」という意味の **this / that** ですが、「この / その」という意味の形容詞としても使うことができます。

<例> **This bag is big.** (このカバンは大きいです)
I like **that restaurant.** (私はあのレストランが好きです)

4. 名詞の補足説明を足す時に使うカンマ (,)

This is my friend, Steve. 「こちらは、私の友だちであるスティーブです」のように補足説明を足す時にカンマが使われることがよくあります。

<例> This is Kazuya, my brother. (こちらは私の兄 (弟) のカズヤです)

Lesson 6-2: be 動詞の否定文② (he / she / it / this / that)

be 動詞が **is** の時の否定文は、他の **be** 動詞の文と同様、**is** の後に **not** を足してあげれば完成となります (**is not** を **isn't** と短縮させることも可。また、**he's not / she's not** と **he / she / it / that** と **be** 動詞を短縮させ、**not** を足す形も可)。

【is の否定文：基本的な形】

主語 + **is not (isn't)** + ○○.

「主語は○○ではありません」

<例> She **is not (isn't)** a teacher. (彼女は先生ではありません)
Ken **is not (isn't)** from America. (ケン、アメリカ出身ではありません)
This **is not (isn't)** my car. (これは、私の車ではありません)
That school **is not (isn't)** big. (あの学校は大きくないです)

【is の否定文の作り方】

ステップ 1: **is** の「肯定文」を作る。

ステップ 2: **is** の後に **not** を足す。 (**isn't** とすることも可)

<例 1 : 彼女は先生ではありません>

ステップ 1 : **is** の肯定文を作る。 → 彼女は先生です。

_____ She is a teacher. _____

ステップ 2 : **is** の後に **not** を足す。 (**isn't** とすることも可)

_____ She is **not (isn't)** a teacher. (She's not a teacher. も可)

<例2：ケン、アメリカ出身ではありません>

ステップ1：isの肯定文を作る。 → ケンはアメリカ出身です。

Ken is from America.

ステップ2：isの後に not を足す。(isn't とすることも可)

Ken is not (isn't) from America.

Lesson 6-3: be 動詞の疑問文② (he / she / it / this / that)

そして、is の疑問文の作り方は、他の be 動詞の疑問文の作り方と同じ。肯定文の be 動詞を文頭に持ってくれば完成となるからです。

【is の疑問文：基本的な形】

Is + 主語 + ～ ?

「主語は～ですか」

- <例> Is he a teacher? (彼は先生ですか)
Is this your desk? (これはあなたの机ですか)
Is she at *Futaba Shrine? (彼女は、フタバ神社にいるのですか)

*「〇〇神社」「△△駅」という場合、1つの固有名詞と考えられ、基本的に〇〇 Shrine / △△ Station と Shrine も Station も最初の s は、大文字になるので注意。

【is の疑問文の作り方】

ステップ1: is の「肯定文」を作る。

ステップ2: is を文頭に持ってきて、最後を?に変える。

<例1: 彼は先生ですか>

ステップ1：isの肯定文を作る。 → 彼は先生ですか。

He is a teacher.

ステップ2：isを文頭に持ってきて、最後を?に変える。

Is he a teacher?

<例2: これはあなたの机ですか>

ステップ1：isの肯定文を作る。 → これはあなたの机です。

This is your desk.

ステップ2：isを文頭に持ってきて、最後を?に変える。

Is this your desk?

【be 動詞の疑問文：答え方】

答え方は、基本的に Yes/No の2種類。（注意：ここでいう代名詞とは、**he / she / it**）

Yes, 代名詞 is.

代名詞と is を短縮させることも可能。

<例> No, he's not. など

No, 代名詞 is not.

is と not を短縮させた形を使うのが一般的。

<例> No, he isn't. など

<例 1> Is he a teacher?

はい → **Yes, he is.**

いいえ → **No, he isn't. / No, he's not. / No, he is not.**

<例 2> Is this your desk?

はい → **Yes, it is.** (Yes, this is. = ×)

いいえ → **No, it isn't. / No, it's not. / No, it is not.**

(No, this isn't. / No, this is not = ×)

Lesson 6-4: 疑問詞③ (Who / What)

ここでは「誰?」という意味の Who と「何?」という意味の What について学んでいきます。これらの疑問詞も基本的に文頭で使われます。そして、これらの疑問詞の後には疑問文の形 (be 動詞の疑問文、一般動詞の疑問文、can の疑問文) が入ります。

【疑問詞を使った疑問文：基本の形】

疑問詞 + 疑問文?

<例> **Who** is he? (彼は誰ですか)

What can you teach? (あなたは何を教えられるのですか)

What is *(What's) that? (あれは、何ですか)

*What is ~? は、What's ~? と短縮せることも可能。

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

ステップ 1: 疑問詞の部分 (誰・何) に**同じ種類の「適当な単語」**を入れて疑問文を作る。

ステップ 2: 入れた「適当な単語」を**疑問詞に戻す**。

ステップ 3: 疑問詞を**文の先頭に持ってくる**。

<例：彼は誰ですか>

ステップ 1: 疑問詞の部分（誰）に同じ種類の「適当な単語」を入れて疑問文を作る。

「誰」の部分「ジョン」に変える → 「彼はジョンですか」

Is he John?

ステップ 2: 入れた「適当な単語」を疑問詞（who）に戻す。

John → who に戻す。

Is he who?

ステップ 3: 疑問詞を文の先頭に持ってくる。

Who is he?

【ポイント！】

会話を始める時に使われる Guess what? / You know what? (何だと思う? / ちょっと聞いて)

会話を始める際に、Guess what? / You know what? という表現が良く使われます。「guess = 推測する」「what = 何」となり「何だと思う?」「ちょっと聞いて」という意味になり、You know what? は、「あなたは知っている、何だか」という意味から「何だと思う?」「ちょっと聞いて」という訳になります。

<例> Guess what? I am in 1B, too. (なんだと思う? 私も1年B組にいます)

Lesson 6-5: 様々なフレーズ②

1. usually (副詞) = たいてい / 通常 / いつもは

<例> I usually have yogurt for breakfast. <私は、たいてい朝食にヨーグルトを食べます>

He is usually busy. <彼は、たいてい忙しいです>

〔補足説明〕

usually は、always / sometimes / often のように、一般動詞の文では、一般動詞の前に足され、be 動詞の文では be 動詞の後に足される。

2. this ~ (this weekend など) = この ~ (この週末など)

<例> Are you free this weekend? <あなたは、この週末暇ですか>

I can do it this Wednesday. <私はそれをこの水曜日にすることができます>

〔補足説明〕

this ~ の形は「副詞句」となるため、on / in といった前置詞はつかないので注意。

3. on one side = 片面に / 片方の面に

<例> You write your idea on one side. <あなたはあなたの考えを片面に書きます>

〔補足説明〕

「片面に乗っている」というイメージなので、前置詞は on が使われる。on this side (こちらの面に) という表現もよく使われる。また、反対側の面(もう1つの面)を on the other side という。「other = 他」という意味で「other side = 他の面」となるが、the をつけて限定することで「残り1つの他の面=反対側の面」となる。

4. I see. = なるほど / わかりました

<例> A: It is not a souvenir. B: I see. <A: それはお土産ではありません。 B: なるほど>

5. the same (〇〇) = 同じ (〇〇)

<例> It is the same color. <それは同じ色です>

〔補足説明〕

基本的に何と同じか限定されるため、the がつく。

6. on the floor = 床 (の上) に

<例> You can sit on the floor. <(あなたは) 床の上に座ってもかまいません>

〔補足説明〕

床の上に乗っているイメージなので、前置詞は on となる。また、基本的にどこの床か限定されているため(自分が立っている床など) the floor と the が付く。

「〇〇階にある」という場合、on the 〇〇 floor となる(〇〇には、first, second, third, fourth, といった序数が入る)。イメージとしては「〇〇階に乗っている」ので、前置詞に on が使われ「どの建物の〇〇階」と限定されているため、the がつく。